

平成23年度第3回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日時 平成24年3月22日(木) 13時30分～15時30分
場所 市役所2階 第3会議室

委員長	副委員長				
小塚	横田	岩田	植松	岡本	荻島
○	○	○	○	○	○
桐生	清水	田中	前田	森本	山田
○	欠	○	○	○	欠

◆事務局◆ 地域文化振興課 市川・原山
生涯学習課 永瀬・佐藤・加治

1 開会あいさつ

2 議題

(1) 協議事項

①計画の進行管理について

【資料1】平成24年度事業に基づく事業設定対照表について

【資料2】生涯学習推進に向けての取り組み予定(案)

【資料3】富士見市生涯学習推進市民懇談会設置要綱

【資料4】第2次富士見市生涯学習推進基本計画の進行管理について(案)

(事務局) 資料1～4について説明を行う。進行管理には事務事業評価を活用しているが、内容が前年度事業になるため、タイムラグが生じる。そのため、今回新年度事業(平成24年)について担当課に照会をかけ回答結果をまとめた。全ての事業について、懇談会内でみていくことは厳しいため、項目ごとに中心となる重点事業をおき、その事業の進行管理を懇談会で行っていきたい意向を伝える。

(委員) 市民懇談会の役割として「提言」があるが、スケジュール的にいつになるのか?また、事業未実施部分についての、提言ということか?

(事務局) 次年度予算は10月に提出となるので、その頃であれば、今後の取り組みを考える上での材料として、各担当課へ懇談会の意見を返し

ていけると考えている。

- (委員) 学校や公民館で行っている事業が載っていないように思うが。
- (事務局) 今回予算項目で事業を出してもらっているため、全ての事業の把握には至っていない。そのため、今後の課題と考えている。
- (委員) 生涯学習推進基本計画になった上での事業の変化がわかるとよいと思う。事業ごとに分けるのではなく、重点事業を挙げてさらに細かく内容がみられるとよいのではないか。市内在住者ではないので、各地域でどのような取り組みがあるのかわからない。もう少し詳細な資料も必要と思う。
- (委員) 指定管理者制度の導入により、生涯学習が推進されたのか否か確認したい。指定管理施設の事業は、一覧に掲載されていないように思うが。
- (事務局) 指定管理施設での事業は、今後精査をしていく。
- (委員) 指定管理者による生涯学習事業も、評価をすべきではないか。施設を利用している団体が、満足しているのかという評価も重要だと思う。

②出前講座について

【資料5】平成23年度 まちづくり講座－受付集計表[中間]－

【資料6】出前講座一覧表【平成23年度版】

出前講座一覧表【平成24年度版】

- (事務局) 資料について説明。今回新年度にあたり、講座の一覧表を見やすくつくり変えた。また、直接職員が会場へ行って講義を行うことが望ましい講座と、DVDなどで代替できる講座など、来年度見直しを行うことを考えている。今年度は、安心安全の講座が圧倒的に多く、市民の学習需要がそのときの時勢にとられる傾向があることから、市役所として推進したい講座なども随時行っていただけらと考えている。
- (委員) あまり開催されていない講座があると聞いた。そのため、今回精査されてよかったと思う。
- (委員) 他の市町でやっているところもあるが、出前講座と人材バンクを一緒に紹介できないか。内容がそれぞれ類似していること、また市民需要がなくとも市役所的に推進していきたい講座など、幅広く活動を考える上では、是非統合することが望ましい。

- (委員) 先日、西交流センターで県職員の講義を聴講したが、県職員の出前講座の売込みを行っていた。職員も積極的に推し進めていくことが必要と思った。
- (委員) 学習需要ということについて。先日の震災は、単に「安心安全」というだけでなく、震災から広がるテーマが各分野に及んでいる。潜在的な学習能力が呼び起こされる契機となったが、どのくらい広く上手に学習に結び付けられるかが重要ではないか。

③生涯学習推進について（意見交換）

- (委員) 男女共同参画の会議で、乳がん検診の受診率の低さが話し合われたことがあった。出前講座ではない講座でも、需要があればその講座を作ることができれば、市役所内でも、課をまたぐことになるため、広がりが出てくる。視点をかえることも必要では。
- (委員) 計画の中でネットワーク化に興味がある。エネルギーのある人がやっぱり地域にいる。埋もれているのがもったいない。60代の獲得がこれからの課題ではないか。
- (委員) 情報の一元化。顔と顔を合わせてわかるようにということが大事。事業わけも縦割りであることから、どれだけ庁内体制の組織が充実するかによる。言葉の羅列は具体性にかけることから、これをよりリアルに感じるためには、どれだけ連携会議を持って共有できるか。言葉をリアルに感じるものが、非常に大事。